

公益社団法人日本技術士会 CPD 行事实施報告

開始日時	平成27年11月16日(月)	18時00分
終了日時	平成27年11月16日(月)	19時30分
名称	第29回CPD研修会(県内技術士会合同勉強会)	
主催者	公益社団法人日本技術士会 千葉県支部	
開催場所	千葉商工会議所14階「第一ホール」(千葉市中央区中央2-5-1)	
行事内容	講演:「公共事業・インフラ・科学的精神～「国土学」を貫くもの～」 講師:大石久和氏 一般財団法人国土技術研究センター 国土政策研究所長	
参加人数	計116名(県職員:36、県庁技:49、船橋市技:11、千葉工大技:7、当支部:13)	

第29回CPD研修会は、千葉工業大学技術士会の参加もあり、県庁技術士会、船橋市技術士会及び当支部の県内技術士会4団体による合同勉強会を開催した。

講師に国土政策研究の大石所長をお招きして、社会経済の大きな潮流の中、新たな時代に向け、技術者として進むべき道を示していただいた。

大石久和氏は、長年建設省・国土交通省の第一線で活躍され国土学、国土計画が専門で、「いかに国土に働きかけていくのか」を主題とする「国土学」を提唱。道の駅制度化の推進者でもある。

講演は、日本がアジアの中で歩んできた歴史を踏まえ、インフラ整備の重要性について分かりやすく解説していただいた。膨大なデータを駆使して、終始切れ味鋭く、説得力のある講演であった。

講師の著書も数多くあり、最新著書「国土が日本人の謎を解く」の共同購入も併せて行い、講師の幅広い見識を垣間見ることができた。

日本にはこれ以上の公共事業は不要、といった風潮が過去にあったことに対して、『国土学』という視点から異議を唱えた。終盤に技術士の話になると、国の大事な政策論議やテレビの討論に専門家である技術者の出番が少なく技術的には素人が討論するのはいかなるものかと投げかけられた。もっと技術士は外に向けて専門家の立場から発言すべきと叱咤された。さらに技術士法を例に挙げ、弁護士法では「品格や品性」を求める記載があるが、技術士法にはない。技術士も法に対して異議を唱えるべし、と課題を投げて、締め括った。

